

# 山口県の田布施・石城山



## しくみ一覧

- 石城神社 365.20km - 曼殊院門跡 - 皇居宮中三殿 365.20km
- 石城神社 365.35km - 三縁寺 - 皇居宮中三殿神喜殿 365.35km
- 日本神社 364.91km - 毘沙門堂 - 皇居宮中三殿神殿 364.91km
- 日本神社 364.91km - 龍華院 - 皇居宮中三殿神殿 364.91km
- 日本神社 364.76km - 醍醐寺准胝堂跡 - 皇居宮中三殿神殿 364.76km
- 石城島神社 349.31km - 櫃原神宮 - 児玉神社 (江ノ島) 349.31km
- 天照皇大神宮教本部 363.14km - 平安神宮 - 明治神宮 363.14km
- 妙躰神社 363.47km - 京都靈山護国神社 - 池上本門寺 363.47km
- 櫻田八幡宮 384.16km - 吉野神宮 - 皇居宮中三殿神殿 384.16km
- 神道天行居 362.27km - 靈明神社 - 明治神宮宝物殿 362.27km
- 比叡神社 360.85km - 近江神宮 - 靖国神社 360.85km
- 心光寺 360.85km - 近江神宮 - 靖国神社 360.85km
- 赤間神宮 828.67km - 靈雲寺 - 北海道神宮 828.67km

※このサイトで紹介する三角祭祀線はすべて、建物と建物がピンポイントの同距離につながります。

## 詳細

- 石城神社 365.20km - 曼殊院門跡 - 皇居宮中三殿 365.20km

### 石城神社

敏達天皇3年(574)石城宮の勅額を下賜。国史では、貞観9年(867年)に「石城神」の神階が正五位上から従四位下に昇叙された旨が記載されている。また、延長5年(927年)成立の『延喜式』神名帳では周防国熊毛郡に「石城神社」と記載され、式内社に列している。

嘉禄3年(1227年)3月の「周防石城宮神官解」では、神社に係る紛争のことが見える。文明元年(1469年)7月には大内政弘により現在の本殿が造営された。この本殿は、永正11年(1514年)に大内義興により、明暦2年(1656年)に毛利綱広により、寛政10年(1798年)に毛利斉房によりそれぞれ修復が行われた。また、安政4年(1857年)には毛利敬親により拝殿と神護寺仁王門(現在の石城神社隨身門)

が造営されている。

近世には「石城山式内三社大権現」と称され、石城山を山岳霊場とする信仰が形成されていた。明治維新後、明治6年(1873年)に近代社格制度において郷社に列し、大正2年(1913年)に県社に昇格した。また、かつて神社の西側には別当寺の石城山舎那院神護寺があったが、明治3年(1870年)に廃寺となっている。

境外社の宇和奈利社が本来の石城山の神であったと見て、山城築造に伴い朝廷から大山祇神・雷神・高龔神が勧請され、宇和奈利社に代わる山城の守護神として石城神社が創建されたとする説もある。

神社のある石城山は西の高野山と呼ばれていた。

山口県光市塩田



### 曼殊院門跡

他の天台門跡寺院と同様、最澄(767-822)の時代に比叡山上に草創された坊(小寺院)がその起源とされる。その後、12世紀頃に北山(現在の京都市右京区・鹿苑寺付近)に本拠を移し、洛中(現在の京都市上京区・相国寺付近)への移転を経て、現在地に移転したのは明暦2年(1656年)のことである。

寺伝では延暦年間(782-806)、伝教大師最澄が比叡山上に営んだ一坊がその起源とされる。円仁、安恵らを経て、10世紀後半の僧である是算の時、比叡山三塔のうちの西塔北谷に移り、東尾坊(とうびぼう)と称したという。最澄、円仁、安恵…というのは天台宗の法脈を表すもので、曼殊院の歴史は実質的には是算の時代から始まるといえる。是算の事績についてはあまり明らかでないが、花山法皇(968-1008)の弟子であったという。

曼殊院門跡は洛北屈指の名刹である。門跡というのは、皇室一門の方々が住職であったことを意味し、勅使門の両側の扉に残る五本の白い筋はその格式を今に伝えるものである。

京都府京都市左京区一乗寺竹ノ内町42

### 皇居 宮中三殿

宮中三殿は、皇居内にある三つの連結された建造物の総称である。それぞれ、神道の神を祀っており、宮中祭祀(皇室祭祀)の中心となる。宮中三殿の構内には、附属するいくつかの建造物が配置されている。

四方拝、新嘗祭が行われる**神嘉殿**(しんかでん)、鎮魂祭や天皇皇后の装束への着替えが行われる綾綺殿(りょうきでん)、神楽が行われる神楽舎(かぐらしゃ)、楽師が雅楽を演奏する奏楽舎(そうがくしゃ)、列席者が待機する左幄舎(ひだりあくしゃ)と右幄舎(みぎあくしゃ)、賢所に正対する賢所正門、新嘉殿に正対する新嘉門などである。宮中三殿の祭祀は、明治維新から宮中祭祀の変遷と漸次的集約を経て、教部省が成立した直後の明治5年4月2日(1872年5月8日)に整ったと解されている。

**賢所**には皇祖神天照大神を祀る。その御霊代である神鏡(八咫鏡の複製)が奉斎されている。また「かしこどころ」と読んで神鏡そのものを指すこともある。



古代より宮中で祭祀された。掌典及び内掌典が御用を奉り、「忌火」（「神聖な火」の意味）を護り続けるとされる。平安時代は温明殿（うんめいでん）、鎌倉時代以後は春興殿にあった。古代から続くという宮中祭祀が行われ、現在の皇后、皇太子妃など皇族の妃らを宮中に迎える結婚の儀もここで行われた。その際、后妃が賢所を退出した際に婚姻成立とみなされる。神聖な場所のため穢れを嫌い、「次清」の別などの厳格な規律があるという。

なお、宮中三殿のうち賢所は古代から宮中で奉斎されてきましたが、皇霊殿と神殿は、明治維新以降の宮中祭祀制度の再編成によって新たに宮中に遷座・奉斎されたものです。東京都千代田区千代田 1-1

### 神殿

天神地祇八百万神が奉斎されている御殿で、明治5年3月に神祇省の廃止と共に宮中に遷座したのがその始まりで、三殿の中では最も後に成立しました。前項で記しましたように、明治2年6月、明治天皇は国是の確立を、天照大御神はじめ天神地祇八百万神と、神武天皇から孝明天皇に至るまでの歴代天皇の皇霊に御奉告のため、神祇官に霊代を設け招き祭らしめられ、御拝されました。そして同年、神祇官に神殿を設ける事が決まり、同年12月に仮神殿が竣工し、その中央の座に八神を、東の座に天神地祇を、西の座に歴代天皇の皇霊がそれぞれ奉斎され、鎮座祭が斎行されました。

明治4年8月、神祇官が廃され神祇省が置かれ、それに伴い神祇省に継承された神殿（西の座）に奉斎されていた歴代天皇の皇霊は宮中賢所に奉遷されましたが、八神と天神地祇は引き続き神祇省の神殿にお祀りされました。しかし、翌5年に神祇省が廃止され新たに教部省が置かれる事になり、そのため同年3月、神祇省神殿に奉斎されていた八神と天神地祇を宮中に遷し仮に賢所拝殿に奉安せしめ給う旨仰せ出され、それを受けて同年4月、神祇省の神殿に奉斎されていた八神と天神地祇、及び京都の神祇伯白川家、神楽岡の吉田家斎場、有栖川宮家の旧邸と新邸にそれぞれ鎮座されていた八神を、御羽車に移し、賢所拝殿に奉遷しました。翌5年、八神と天神地祇の両座を合祀して一座とし、「神殿」と改称され、これによって現在の宮中三殿の原型が成立しました。東京都千代田区千代田 1-1

## ■石城神社 365.35km - 三縁寺 - 皇居宮中三殿神喜殿 365.35km

### 三縁寺

山号を法輪山という浄土宗寺院で、元々は、京都市東山区縄手通三条下る大国町、現在の京阪電車の三条京阪駅の東のバスターミナル付近にあったが、昭和五十四年(1979)に現在の岩倉花園町に移転した。尚、三条京阪付近には三縁寺の他に、三縁寺の北に西願寺、南側に養福寺と高樹院があったが、全て京都市の都市整備計画に協力して岩倉や八瀬等に移転している。

有名な池田屋事件については割愛するが、池田屋付近にあった三縁寺には、事件後に現場に捨てられたままになっていた志士九人の遺体が運び込まれて供養されたと伝えられる。

その後、昭和五十四年(1979)六月に三縁寺が岩倉に移転する際に、旧墓地内の志士の遺骨も発掘され、岩倉の新墓地に改葬された。山門脇には「池田屋事変殉難烈士の墓」という石標があり、境内の奥にある墓地には、鳥居の奥には志士の墓が五基ある。正面と、その右の背の低い自然石の墓が、肥後の宮部鼎蔵と松田重助の墓。右が古い墓で、正面の墓は後に立てられたものようだ。正面左にある背の高い墓は、播州林田藩の大高又次郎の墓。また、長州藩の吉田稔麿、杉山松助、廣岡浪秀の三名、土佐藩の北添侘麿、望月亀弥太、石川潤次郎の三名、計六名の合同墓





もある。

京都府京都市左京区岩倉花園町606

## ■日本神社 364.91km - 毘沙門堂 - 皇居宮中三殿神殿 364.91km

### 日本神社

宗教団体・神道天行居の神社。

神道天行居（しんどうてんこうきょ）は、友清歎真（ともきよ よしさね）によって創始された古神道系の新宗教団体。秘密結社に分類される事もある。本部は、山口県熊毛郡田布施町の石城山の麓。現在でもユダヤ陰謀論を信じ、「靈的国防」を唱えている。

前身は友清歎真が1920年（大正9）に創設した靈学の実践団体（格神会）である。1927年（昭和2年）には石城山上の石城神社での神示（山上の天啓・十の神訓）があった。

1931年（昭和6年）、井口寅次に宗主職を譲り、友清は顧問となったが、1934年（昭和9年）、内紛のため井口の宗主の地位を剥奪された。

戦前には、道士の松浦彦操が離脱し、太古神法を松浦家の家伝とした。

終戦直後には宮地水位の道術を継承した正井頌益（教団の傘下の教会長）・清水宗徳（本部職員）が離脱し、それぞれ宮地水位の道術を継承して古神道仙法教・神仙道本部（土佐五台山）を興した。

友清は、ユダヤ人の陰謀による日本への攻撃、すなわち武力戦・生産戦・思想戦に対して靈的方面から援護するという「靈的国防」を提唱した。これを実現するために、天行居では、友清の指示により、1927年（昭和2年） - 1952年（昭和27年）の間、白馬岳山上、中朝国境の白頭山頂の天池、武甲山上、洞爺湖、台湾の日月潭、琵琶湖、富士山麓、十和田湖、明石海峡に神霊を鎮め、国内の神霊については、現在でも毎年、現地で例祭を執行している。これらの神霊のうち白頭山天池の神霊を最も重要なものとしている。

友清によると「太古神法とは、神事の根元をなすもので、天孫降臨以来、皇室で伝承されていたが、倭姫命以降、代々の斎宮に口伝で相伝されてきた秘事」だという。

友清は、京都の堀天龍齋から1927年（昭和2年）に相伝を受けたとされ、この太古神法を伝承していることが、天行居の靈的権威の最大の裏付けとしている。

本信者であった友清は、「大正十年頃、欧州大戦に引き続き、日本対世界の戦争が起き、さらに天災地変も同時に起こり、一人も助からない」など、社会不安や危機感をあおり立てた。

石城山にあるほかの神道天行居の神社/磐山神社/五十猛神社/物部神社/葦原神社/石城島神社/天龍神社  
山口県光市大字塩田2233番地

### 毘沙門堂

毘沙門堂は天台宗五箇室門跡のひとつで、高い寺格と鄙びた山寺の風情を伝える古刹である。

ご本尊に京の七福神のひとつ毘沙門天を祀ることからこの名がある。創建は大宝三年（703）文武天皇の勅願で僧行基によって開かれた。当初は出雲路（上京区・御所の北方）にあったことから護法山出雲寺といった。その後、たび重なる戦乱から苦難の道をたどり、寛文五年（1665）、山科安朱の地に再建。

後西天皇の皇子公弁法親王が入寺してより門跡寺院となった。伝教大師が唐より将来された鎮将夜叉法という行法は、天台五箇大法のひとつとして当門跡だけに伝わる秘法である。龍華院のそばにある。京都市山科区安朱稲荷山町18

## ■日本神社 364.91km - 龍華院 - 皇居宮中三殿神殿 364.91km

### 龍華院

1656年、長州毛利秀就の室・喜佐姫（きさひめ）の外護により、妙心寺223世・竺印祖門（じくいん そもん）が龍華院を創建したともいう。竺印は、師・千山玄松（せんざん げんしょう）を勧請開祖とし

た。ただ、喜佐姫はすでに亡く、その子・松平綱広（まつだいら つなひろ）が亡き母の追善供養のために菩提所にしたともみられる。

毛利 秀就（もうり ひでなり）は、江戸時代初期の大名で、長州藩初代藩主。  
京都府京都市山科区安朱稲荷山町

## ■日本神社 364.76km - 醍醐寺准胝堂跡 - 皇居宮中三殿神殿 364.76km

### 醍醐寺准胝堂跡

醍醐寺の開祖・聖宝（しょうぼう、空海の孫弟子）が山中で聖地を求めて歩いていた時、一人の老人が現れました。その老人は湧き出る泉を口に「醍醐味なるかな」との言葉を残し、消え去ります。

そう、この山こそが求めていた聖地で、老人は山の地主神・横尾明神の化身。聖宝は明神からこの山を譲り受けます。貞観 16（874）年、聖宝は笠取山山頂に庵を営み、准胝観音像と如意輪観音像の彫像、そして堂宇建立に着手。二年後の貞観 18（876）年に両観音像とそれを安置する准胝堂が完成し、後に薬師堂、開山堂、如意輪堂など数々の伽藍が山上に姿を現しました。

醍醐寺の創建は貞観 16 年（874 年）、空海の孫弟子にあたる理源大師聖宝が准胝観音並びに如意輪観音を笠取山頂上に迎えて開山、聖宝は同山頂付近を「醍醐山」と名付けた。醍醐寺は山深い醍醐山頂上一帯（上醍醐）を中心に、多くの修験者の霊場として発展した後、醍醐天皇は醍醐寺を自らの祈願寺とすると共に手厚い庇護を掛け、その圧倒的な財力によって醍醐山麓の広大な平地に大伽藍「下醍醐」が発展することになる。その後、応仁の乱など戦乱で下醍醐は荒廃し、五重塔のみが残された。しかし豊臣秀吉による「醍醐の花見」をきっかけに、紀州などから寺院建築が移築され、三宝院が建設されたりなどし、今日の姿となった。

貞観 18 年（876）、聖宝理源大師が柏の霊木から准胝観世音菩薩を彫り、お堂を建ててお祀りしたのが准胝堂の始まりとされている。

そこに安置された本尊・准胝観音坐像は一面三目十八臂（び）の木像。母の慈愛の心をあらわす観音さまで、安産や子育てにご利益があるとして信仰を集めてきた。“西国三十三霊場第十一番札所”となっている。

創建後、幾度かの火災により焼失したが、昭和 43 年（1968）に再建された。ところが平成 20 年（2008）8 月 24 日未明の落雷によりまた焼失してしまったのです。落雷が予想される山上で、その防止策がなされていなかったのでしょうか？。現在、跡地にはロープが張られている。

京都府京都市伏見区醍醐山

## ■石城島神社 349.31km - 橿原神宮 - 児玉神社（江ノ島） 349.31km

### 石城島神社（石城山）

昭和初期開山の神道天行居の神社。

### 橿原神宮

記紀において初代天皇とされている神武天皇を祀るため、神武天皇の宮（畝傍橿原宮）があったとされるこの地に、橿原神宮創建の民間有志の請願に感銘を受けた明治天皇により、1890 年（明治 23 年）4 月 2 日に官幣大社として創建された。1940 年（昭和 15 年）には昭和天皇が同神社に行幸し、秋には日本各地で紀元 2600 年奉祝式典が挙行された。この年の参拝者は約 1000 万人に達したという。現在でも皇族の参拝がある。 奈良県橿原市久米町 9 3 4







して平安京遷都当時の大内裏の一部復元が計画された。当初は実際に大内裏があった千本丸太町に朱雀門が位置するように計画されたが、用地買収に失敗し、当時は郊外であった岡崎に実物の8分の5の規模で復元された。博覧会に先立つ3月15日には、平安遷都を行った天皇であった第50代桓武天皇を祀る神社として創祀された。皇紀2600年にあたる1940年（昭和15年）に、平安京で過ごした最後の天皇である第121代孝明天皇が祭神に加えられた。平安神宮では、京都を守る四神の御守が授与されている。1976年（昭和51年）1月6日、火災（平安神宮放火事件）が発生し本殿・内拝殿など9棟が炎上、焼失した。ただし、外拝殿である大極殿は延焼をまぬがれている。創建が比較的新しかったことから、当時はこれらの建物は文化財指定を受けていなかったため、再建のための国からの補助金が見込めなかった。しかし、全国からの募金により、本殿や内拝殿は3年後に再建された。この火災は、後に日本の新左翼活動家加藤三郎の犯行と判明した。「自らの権威誇示のため、民百姓に塗炭の苦しみを与えるような平安京を造営し、また領土的野心のために蝦夷を侵略し、蝦夷人を虐殺・奴隷化した」桓武天皇を祭神として祀ることは「神」に対する冒瀆と思ひ込んだ。京都市左京区岡崎西天王町

### 明治神宮

明治天皇と昭憲皇太后を祭神とする。初詣では例年日本一の参拝者数を誇る。正式な表記は「宮」の「呂」の中間の線が入らない。明治天皇は京都の伏見桃山陵に葬られたが、東京に神宮を建設したいとの運動が天皇を崇敬する東京市民から起こった。続いて、1914年（大正3年）に皇后であった昭憲皇太后が崩御すると、政府は神社奉祀調査会を設置して審議し、大正天皇の裁可を受けて、1915年（大正4年）5月1日、官幣大社明治神宮を創建することが内務省告示で発表された。造営には全国から13,000人もの国民が労力奉仕に自発的に参加した。鎮座祭は1920年（大正9年）11月2日に行われ、皇室からは大正天皇の名代として皇太子裕仁親王（のちの昭和天皇）が行啓した。初代宮司は公爵一条実輝。  
東京都渋谷区代々木神園町1-1



■ 妙躰神社 363.47km - 京都霊山護国神社 - 池上本門寺 363.47km

### 妙躰神社

不明 山口県熊毛郡田布施町麻郷

### 京都霊山護国神社

1862年（文久2年）、時衆霊山派の正法寺の朱印地のなかの神道葬祭場霊明社において有志者による神葬祭が行われた。祭神は菊理媛神・速玉男命・事解男命の3神（他に相殿3神）。

1868年6月29日（慶応4年5月10日）、明治天皇から維新を目前にして倒れた志士たち（天誅組など）の御霊を奉祀するために、京都・東山の霊山の佳域社を創建せよとの詔・御沙汰が発せられた。それに感激した京都の公家や山口・高知・福井・鳥取・熊本などの諸藩が相計らい京都の霊山の山頂にそれぞれの祠宇を建立したのが神社創建のはじまりであり、招魂社である。靖国神社より古い歴史を持つ。祭神の中には京都で暗殺された坂本龍馬も含まれており、境内に銅像が作られているほか、誕生日であり命日でもある11月15日には、龍馬の遺徳を偲び、霊を慰める龍馬祭が行われる（誕生日・命日は本来

は旧暦 11 月 15 日だが、祭は新暦 11 月 15 日に行われる)。龍馬のほか、木戸孝允、中岡慎太郎、頼三樹三郎、梅田雲浜、吉村寅太郎、平野国臣、久坂玄瑞、高杉晋作、宮部鼎蔵ら幕末勤王の志士 1,356 柱、明治以降の日清戦争、日露戦争、太平洋戦争などの戦死者を合わせ約 73,000 柱が祭神として祀られている。 また、平成 24 年 4 月には特攻勇士の像が建立された。京都府京都市東山区清閑寺霊山町 1



### 池上本門寺

幕末には、江戸城攻撃のために東征した官軍が当山に本陣を構えるなど、動乱の影響を受けた。この時、江戸城の無血開城のため西郷隆盛と勝海舟が当山奥庭の松濤園で会見したとされる。明治時代には新制度下の混乱と改革の嵐に見舞われるなか、第 65 世新居日薩聖人の尽力によって宗門の近代化が進められていった。 東京都大田区池上 1 丁目 1-1-1

## ■ 神道天行居 362.27km - 霊明神社 - 明治神宮宝物殿 362.27km

### 神道天行居

「靈的国防論」を展開。その最大の理論家が宗教結社「神道天行居」の創設者「友清歆真（ともきよよしぎね 1888-1952）」だ。山口県山口市に生まれた友清は青年時代に政治運動に熱中し、「六連報」「東亜評論」などの政治誌を創刊。やがて宗教に関心を抱き 45 歳の頃、大本教に入信。機関誌「神霊界」で執筆するも翌年大本教を離脱し、霊学者・長沢雄楯、京都の茶人・堀天龍斎らと接触し独自の霊学を確立。宗教結社「格神会」を創設。後の「神道天行居」へと繋がる。靈的国防論における主要な神敵としてユダヤ＝フリーメイソンを設定しているが、その論理は「日本＝善」「ユダヤ＝悪」（正の産霊、邪の産霊）とした単純な善悪二元論でしかない。山口県熊毛郡田布施町波野 1 2 4 8

### 霊明神社

幕末期、志士の遺骸が葬送された霊山正法寺道沿いの急坂途中に、小社・霊明神社(れいめい じんじゃ)はある。招魂社・招魂祭の起源の地であり、維新後、東京招魂社・靖国神社へと引き継がれた。

祭神は本社に、天御中主尊、熊野三柱大神として、菊理媛尊、速玉男命、事解男命。相殿に天照皇大神、猿田彦大神、天鈿女命、武甕槌命、經津主命。末社に、猿田彦御神石を祀る。

#### ◆ 歴史年表

江戸時代、1807 年、猿田彦御神石が境内に遷される。

1809 年、初代・村上都愷(くにやす)が正法寺塔頭・清林庵所有の山林 1000 坪を買い受け、霊明社が建立される。徳川政権下で神道による葬式、神葬祭を断行する。(1862 年、3 代・村上(丹波)都平(くにひら)の時、神葬祭を勧める長州・毛利家とつながる。在京志士の葬送、祭礼地になる。吉田玄蕃(黙)により、船越清蔵の墓が建立され神道葬が営まれる。安政の大獄(1858-1859)以降の殉難志士の「報国忠死の靈魂祭」が営まれる。1863 年、土佐の吉村虎太郎(1837-1863)は、友で病死した宮地宜蔵(1838-1863)の埋葬、祭祀を依頼した。1864 年、長州の久坂玄瑞(1840-1864)は、先祖永代供養を任せる。長州屋敷により、池田屋事件で暗殺された吉田稔磨(1841-1864)が埋葬される。1867 年、近江屋事件で京都見廻組により暗殺された坂本龍馬(1836-1867)、中岡慎太郎(1838-1867)、世話役・山田藤吉(1848-1867)が当社に葬られた。近代、1868 年、霊明社、村上氏の境内地、墓地は上知になり、東山招魂社に譲られる。京都市東山区清閑寺霊山町 25

### 明治神宮宝物殿

明治天皇と昭憲皇太后を祀る明治神宮。宝物殿は境内の北方にある。明治神宮が創建された翌年の大正



10年(1921)に竣工され、その建物は奈良の正倉院の校倉造りを模した校倉風大床造りと称されている。殿内には、明治天皇と昭憲皇太后にゆかりの深い御物、日常ご使用の机、文房具、ご愛読の書籍、ご乗車の馬車、その他の調度品が陳列されています。東京都渋谷区代々木神園町1-1

**備考**やはり宝物殿は、大切なポイントになる。これまで神社宝物殿に線がぶつかり本殿ではなくてがっかりしたことが何度かあったが、再確認する必要がある。

## ■ 櫻田八幡宮 384.16km - 吉野神宮 - 宮中三殿神殿 384.16km

### 吉野神宮

後醍醐天皇を祭神とする神社。建武中興十五社の一社で、旧社格は官幣大社である。旧社名 吉野宮。南朝の後村上天皇は、父の後醍醐天皇が延元4年(1339年)に崩御した後、その像を吉水院に安置した。以降、仏教式の供養が行われていたが、明治時代に入って神仏分離により明治6年(1873年)に吉水院を後醍醐天皇社という神社に改めた。2年後に吉水神社と改称して後醍醐天皇を祭神とする神社となった。このとき太政官政府は官費(国費)で別の神社を創建する考えを表明したが、そのまま棚上げになって時が経った。明治22年(1889年)6月22日に、後醍醐天皇を祀る官幣中社吉野宮の創建が、明治天皇の意向で決定した。明治25年(1892年)に社殿が竣工して、吉水神社から後醍醐天皇像を移して遷座祭が斎行された。明治34年(1901年)に官幣大社に昇格し、大正7年(1918年)に吉野神宮に改称した。奈良県吉野郡吉野町吉野山 3226



### 櫻田八幡宮

旧郷社。昔むかしは、「降神社」という名の神社で、降神村にありました。室町時代後期(1507年)大内義興(おおうちよしおき)がこの桜田山麓に遷座・造営したとされる神社です。同年、宇佐八幡宮の分霊を勧請(かんじょう)し、「櫻田八幡宮」と改称されました。現在の社殿は、江戸時代末期(1859年)に再建されたものです。

皇威輝四海碑「こういしかいにかがやく」の碑がある。明治時代中期(1897年)、戸田村民により建てられました。碑文は、地元出身の陸軍中将児玉源太郎(こだまげんたろう)筆。碑の裏側には、日清戦争(1894年)に従軍した戸田村民30名の名前が彫られています。児玉源太郎は、台湾総督を務める一方で、児玉文庫を創設するなど郷土の発展にも貢献しています 山口県周南市戸田

## ■ 比叡神社 360.85km - 近江神宮 - 靖国神社 360.85km

## ■ 心光寺 360.85km - 近江神宮 - 靖国神社 360.85km

### 比叡神社

山王宮と称し明治初年に比叡神社と改称した。「比叡神社」は、805年(延暦24年)に創建され、鞍掛城主・杉隆泰や岩国藩主・吉川氏にも崇められたと伝えられています。社頭には、樹齢1000年と伝えられ、高さ30数m、幹周囲7mに達する老杉があります。そこから、古木が茂る境内山林の221段の石段を登ると拝殿があります。また春には参道の桜並木が見事です。山口県岩国市玖珂町

## 心光寺

開山は心蓮社廓誉然流和尚、文明元巳丑年中京都四ヶ本寺より入寺し往古応永 17 庚寅年中南興福寺領 720 石あり、この頃地内に 7ヶ寺の仏閣ありしが星霜移りて悉く頽廢に及び、内、真言宗の 1ヶ寺残れり高向山正福寺と号也り、之れを再興して浄土宗に改め畑 5 畝歩を開きて再建し天正 12 年 2 月 12 日寂す。爾来法脈連綿として現在に及ぶ。現本堂は明治 13 年再建にて 5 間半 4 面 庫裡は昭和 13 年改築 観音堂 1 間半 4 面大正 6 年改築 山口県柳井市柳井白潟東 463

## 近江神宮

天智天皇 6 年（667 年）に同天皇が当地に近江大津宮を営み、飛鳥から遷都した由緒に因み、紀元 2600 年の佳節にあたる 1940 年（昭和 15 年）の 11 月 7 日、同天皇を祭神として創祀された。終戦直後には、神道指令が発令された 1945 年（昭和 20 年）12 月 15 日のまさにその当日に、戦後復興を祭神（天智天皇）に祈願した昭和天皇の勅旨により、同神宮は勅祭社に治定された。滋賀県大津市神宮町 1-1-1

## 靖国神社

祭神は、幕末から明治維新にかけて功のあった志士に始まり、1853 年（嘉永 6 年）のペリー来航（所謂「黒船来航」）以降の日本の国内外の事変・戦争等、国事に殉じた軍人、軍属等の戦没者を「英霊」と称して祀り、その柱数（柱（はしら）は神を数える単位）は 2004 年（平成 16 年）10 月 17 日現在で計 246 万 6532 柱にも及ぶ。

戊辰戦争終戦後の 1868 年（慶応 4 年）旧暦 6 月 2 日に、東征大総督有栖川宮熾仁親王が戦没した官軍（朝廷方）将校の招魂祭を江戸城西丸広間において斎行したり、同年旧暦 5 月 10 日に太政官布告で京都東山（現京都市東山区）に戦死者を祀ることが命ぜられたり（現京都霊山護国神社）、同旧暦 7 月 10・11 の両日には京都の河東操錬場において神祇官による 1853 年（嘉永 6 年）以降の殉国者を慰霊する祭典が行われる等、幕末維新期の戦没者を慰霊、顕彰する動きが活発になり、そのための施設である招魂社創立の動きも各地で起きた。それらを背景に大村益次郎が東京に招魂社を創建することを献策すると、明治天皇の勅許を受けて 1869 年（明治 2 年）旧暦 6 月 12 日に現社地での招魂社創建が決定され、同月 29 日（新暦 8 月 6 日）に五辻安仲が勅使として差遣され、時の軍務官知事仁和寺宮嘉彰親王を祭主に戊辰の戦没者 3,588 柱を合祀鎮祭、「東京招魂社」として創建された。ただし、創祀時は未だ仮神殿の状態であり、本殿が竣工したのは 1872 年（明治 5 年）であった。

1865 年、長州藩が奇兵隊の死者を祀るために建立した桜山招魂社が、靖国神社の起源である。その後、禁門の変、戊辰戦争などで戦死した長州軍の兵を合祀。明治維新後、明治天皇の上京にともない、天皇の錦の御旗が与えられることで、官幣の神社として靖国神社が設立された。

以上の経緯を踏まえると、靖国神社は、明治維新以降、実権を握った長州閥の意向が色濃く反映された神社だと言える。事実、会津藩家老を先祖に持つ右翼の大物・田中清玄は、靖国神社を「長州藩の守り神にすぎないもの」と切り捨てたという。

東北地方は、仙台第二師団のガ島玉砕、第 36 師団（雪部隊）のニューギニア玉砕はじめ、戦没者の多い地域だが、「靖国神社に参拝すべきだ」とする意見には異を唱える人が多い。「朝敵は弔わず」、これは賊軍に対する明治政府の一貫した姿勢だった。東北(奥羽列藩同盟)の犠牲者をはじめ、彰義隊、西南の役の西郷隆盛側などは、靖国はもちろん、日本各地の招魂社（護国神社）にも祀ることはなかった。

そして、薩長中心による富国強兵政策の一貫としての軍事強化推進が、その後の日清・日露・大東亜戦争につながったと見るのが自然だし、靖国はその精神的支柱として存在した。今なお、“明治政府（官軍側）は素晴らしかったと絶対視”し、賊軍とされた地域のインフラ整備の後回しなど、東北蔑視政策が続くかぎり、多くの東北人が心から靖国神社を参拝する気持ちにはならないだろう。

そこには、薩長が天皇を人質同然にした当時の、「天皇陛下＝靖国神社だ。文句あるか」という、天皇の威光を利用するだけ利用した空気が流れている。それに比して、京都守護職を務めた会津藩主・松平保容は、孝明天皇から辰翰を賜り、正に官軍だった。明治26年12月5日松平保容公死後、辰翰の事実を知った明治政府は、この内容が公になれば、自分達が嘘で固めた歴史観が根底から覆えるとあわてた。

そして、明治政府は密かに大金で譲渡するように圧力をかけたが、会津藩・松平家はこれを頑強に拒否した。何度でも繰り返すが会津藩側が官軍、薩長土肥(明治政府)側が賊軍だったのだ。

それに薩長や岩倉具視らの戦略による錦旗の偽造や、孝明天皇の毒殺説も有力だ。これが薩長は「偽(にせ)官軍」と言われる理由であり、偽(にせ)官軍が天皇陛下の威光を利用するために作ったのが「靖国神社」という図式になる。

日本を再び戦争をする国家にさせようと企む人達にとっては「国のために命を捨てさせる」ための装置としてこの神社は象徴的な大きな意味をもつものなのでしょう。

千代田区九段北3丁目1-1

## ■赤間神宮 828.67km - 霊雲寺 - 北海道神宮 828.67km

### 北海道神宮

江戸時代から松浦武四郎による石狩大社の構想などがあり、蝦夷地・石狩に大社を建てる構想は早くからあった。箱館八幡宮の宮司菊池重賢は、箱館八幡宮の末社としてサッポロに石狩鎮守八幡宮を建立する案を持っていた。この案は神祇管領の吉田家により承認されていたが、開拓使の設立によって実現はしなかった。後に菊池重賢は北海道神宮(当時は札幌神社)の事実上の初代宮司となった。1870年(明治3年)5月に北海道(令制)石狩国札幌郡の創成川河畔に仮社殿を造り、官舎から神代を移して開拓神勅祭社とし、北海道一宮と称した。



島義勇は早山清太郎を地理係に雇い入れて本格的な神社用地を探させた結果、三方を山に囲まれ一方が開ける丘となる円山(当時は藻岩村大字圓山)の地が相応しいとして社地を定めた。島義勇はここに壮麗な社殿を建てようとするが、計画が壮大すぎるために大蔵省からストップがかかって断念した。この件に限らず、島義勇の札幌の開発計画は壮大で巨額の予算を惜しげもなく投じるもので、6万両の予算をわずか3か月でほとんど使い果たしてしまった。この結果、島はその後もまもなく職を解かれてしまうが、東久世通禧は島義勇が定めた円山に新社殿を造営することにした。この時建立された社殿はいちおう「仮宮」ということになった。1871年(明治4年)6月に鎌倉宮を模した新社殿が落成し、9月14日に遷宮を行った。国幣小社。1893年(明治26年)には官幣中社、1899年(明治32年)にはついに官幣大社となった。1964年(昭和39年)、明治天皇を増祀し、社名を現在の北海道神宮へと改めた。1974年(昭和49年)11月10日に何者かに放火されて本殿・祝詞殿・内拝殿などが全焼(北海道神宮放火事件)。

祭神 大国魂神(おおくにたまのかみ) 大那牟遲神(おこなむちのかみ、大国主命(おおくにぬしのみこと)の別名) 少彦名神(すくなひこなのかみ)、明治天皇(めいじてんのう)。

### 霊雲寺

徳川幕府の永代祈願所として設けられた。天皇家に次ぐ、実質的な為政者として最高位の幕府の祈願の対象は、国家の鎮護であった。徳川家は五代目の綱吉の時代で、幕府の体制は堅固になっており、これを子々孫々まで維持することも祈りの対象であった。さらに、江戸城から見て北東(艮)の方角は鬼門でもあり鬼門を鎮めねばならなかった。

元禄4年(1691年)、浄厳律師覚彦により創建された寺である。浄厳は寛永16年(1639年)、河内の生まれ。10歳の時、高野山で得度し、後に河内の教興寺(飛鳥時代、秦河勝の開基と伝える。大阪府八尾市)、延命寺(空海の開基と伝える。大阪府河内長野市)などを再興した。浄厳は柳沢吉保の帰依



を受け、時の江戸幕府将軍徳川綱吉から現寺地を得て、霊雲寺を開創した。元禄6年（1693年）には多摩郡上図師村（東京都町田市）に百石の寺領を得、元禄7年（1694年）には関八州の真言律宗の総本寺とされた。

江戸幕府から朱印状を受けるなど幕府の保護を受け、関東における真言律宗の中心的な寺院であった。関東大震災、第二次世界大戦の戦災で堂宇を焼失し、現在の堂宇は戦後復興されたものである。昭和22年（1947年）に真言宗霊雲寺派を公称して真言律宗から独立した。

霊雲寺の難事/安政四年（1857）の火災による堂宇焼失、大正十二年（1923）の関東大震災、昭和二十年（1945）の戦災、また明治維新における徳川幕府の崩壊は、大檀那の喪失。

東京都文京区湯島2丁目2-1-6

### 赤間神宮

貞観元年（859年）に阿弥陀寺として開闢。

文治元年（1185年）の壇ノ浦の戦いで入水した安徳天皇の遺体は現場付近では発見できなかったが、赤間関（下関）に建久2年（1191年）、勅命により御影堂が建立され、建礼門院ゆかりの尼を奉仕させた。

以後、勅願寺として崇敬を受ける。明治の神仏分離により阿弥陀寺は廃され、神社となって「天皇社」と改称した。また、歴代天皇陵の治定の終了後、安徳天皇陵は多くの伝承地の中からこの安徳天皇社の境内が明治22年（1889年）7月25日、「擬陵」として公式に治定された。天皇社は明治8年（1875年）10月7日、赤間宮に改称し、官幣中社に列格した。昭和15年（1940年）8月1日、官幣大社に昇格し赤間神宮に改称した。山口県下関市阿弥陀寺町4-1

### 備考

まさに「田布施システム」。醍醐寺も醍醐天皇の勅願寺。これらのしくみで江戸時代に徳川家と天皇を護るために岩城山に住んでいた祭祀一族は、テロともいえる幕末明治維新第二奇兵隊により制圧され、山を下ろされ、神護寺はなくされた。岩城神社を中心に、新興宗教の新しい様々な神々を配置し、格の高い神宮を乱立し、天皇家と長州藩のための新しいしくみ作りを始めた黒幕の拠点。現在もなお、山口県の長州藩が、新興宗教を使い天皇家や政治に関わっていることがわかる。ちなみに山口県は安倍晋三含め総理大臣を9人も輩出している。宝くじは、2009年以降、山口県宇部市売り場での高額当選総額が13億円に達している。